

# テキスト構造の観点からみる大過去形についての一考察

宮脇 玲奈  
(関西学院大学研究生)

大過去形は、多くの文法書では、過去のある時点よりもさらに前の事態を表すものとして説明され、(1)のように、直前直後の文から基準点がわかるような例を示すことがほとんどである。

(1) *J'avais retenu de confortables cabines et nous avons fait une excellente traversée.*  
(Beauvoir, *Adieux* cité par 朝倉, 2002)

しかし、次のような大過去形もある。(2)は Michel Tournier の訃報記事の一部であり、経歴・業績を述べている部分である。

(2) En 1967, il obtient d'emblée le grand prix du roman de l'Académie française avec *Vendredi ou les Limbes du Pacifique*. Son talent se confirme trois ans plus tard, avec *Le Roi des Aulnes*, porté à l'écran en 1996 par Volker Schlöndorff, puis en 1975 avec *Les Météores*. De nombreux autres ouvrages suiront. Ancien membre du comité de lecture de Gallimard, il *avait été juré* Goncourt de 1972 à 2010. Il *avait été fait* commandeur de la Légion d'honneur le 1<sup>er</sup> janvier.

(*Le Monde*, 19/01/2016)

最初は歴史的現在形が連続して用いられ、その後に未来形が現れる。そして、晩年の出来事になると、大過去形が現れる。これらの大過去形は一連の現在形や未来形にたいして後続しているように思われる。直前直後の文だけでは基準点を判断できないこのような大過去形はテキスト構造を考慮することで明らかになると考えられる。

本発表では、(2)のような大過去形をテキスト構造の観点から考察し、またこのような大過去形がテキストにおいてどのような働きをしているのかを明らかにすることが目的である。